

協働パイロット事業（H28）企画提案書

団体名：いきもの企画

1 事業の名称

「日本平学園 大人の部」

2 事業の概要（市民ニーズや協働で取り組む意義を踏まえて記載してください）

●概要

月に1度（計5回程度）日本平動物園のビジターセンター等を活用し、各回大人に向けた「日本平動物園」と「いきもの」をテーマにした講座・パネルディスカッションを行う。

市民目線の「知りたいこと」と動物園側の「伝えたいこと」をすりあわせ、いきもの企画のテーマである「楽しく知ってもらおう」イベントを行う。

●主旨

当団体は、動物園とは年に1度遊びに行くレジャー施設としてだけではなく、日々学習の場として市民に活用されるべき施設だと考えている。

いきものは「かわいい」「かっこいい」以上に多くの事を学べる生きた教材であり、それを有する動物園は地域の財産だからである。

今回我々は、「大人」が目的を持って、「定期的に」動物園に楽しく「学びに」来る機会をつくりたいと考え、この事業を企画した。

その延長上に日本平動物園やいきもの全般に対する「より深いファン」があり、地域の動物園はそのような愛によって活かされ、支えられるものだと思っている。

この事業を機会に新しいファン、リピーターを増やしたい。

●目的

- ・いきものから学べることがたくさんあると知ってもらおう
- ・動物園が地域の大切な財産であると気づいてもらう
- ・まだまだある、日本平動物園やいきものの楽しみ方を知ってもらおう
- ・大人が定期的に動物園に足を運びきっかけをつくる
- ・日本平動物園やいきものの、より深いファンをつくる

●内容

・月に一度、テーマに沿った「マニア」を数人招き、パネルディスカッションを行うイベントを開催する。

・パネルディスカッション後、参加者同士で交流できる時間を持ち、動物園を中心としたゆるやかなつながりができる場をつくる。

(各回のテーマは、動物園側の伝えたいこととすり合わせる必要があるため、以下は一案である)

1回目 - パネラー 日本平動物園職員、ボランティアガイド、いきもの企画 橋詰

テーマ「日本平動物園学」

日本平動物園の特徴的なこと、知られていないすごいこと、愛すべきポイントなど

2回目 - パネラー 動物園マニア、いきもの企画 橋詰

テーマ「ほかの動物園ファンがみた日本平」

数多くの動物園をまわる動物園マニア（他園のファン）から、他園の自慢（すごいところ）、他園と比較した日本平動物園のすごいところ、「そこ見るの?!」なところなど

3回目 - パネラー レッサーパンダマニア、いきもの企画 橋詰

テーマ「レッサーパンダ」

日本平動物園が担当し繁殖しているレッサーパンダについて

4回目 - パネラー 珍獣マニア、いきもの企画 橋詰

テーマ「珍獣マニア」

日本平動物園でも飼育している「ツチブタ」をはじめとする、「珍獣」といわれるいきものについて。どんないきものなのか、何が珍しいのか、面白いポイントや見ることができる動物園について

5回目 - 講演 なにわホネホネ団

テーマ「骨格標本」

大阪市立自然史博物館を拠点に活動している骨格標本作成サークルの「なにわホネホネ団」を招いて、日本平動物園のビジターセンターに数多く展示してある骨格標本を中心に、「骨格標本とは」「見方」「楽しみ方」「作る際の裏話」など

団体名：いきもの企画

3 協働して事業を行う際、貴団体の担う役割と静岡市に担って欲しい役割

団体 — イベントの企画、設定、配布資料等の作成、ゲストのブッキング、打ち合わせ、広報物作成
動物園 — 日程の設定、ビジターセンター等開催場所の提供、レジユメ等の印刷、当日運営の協力、
1回目のパネラー参加、打ち合わせ、広報

4 事業計画・実施スケジュール

- 7月 - 担当者と打ち合わせ、テーマの決定、日程の決定
テーマにあわせたパネラーのブッキング
広報物作成
- 8月 - 全体の広報開始
1回目の参加受付開始
資料作成
- 9月 - 1回目の開催、2回目の広報、受付開始 打ち合わせ、資料作成
- 10月 - 2回目の開催、3回目の広報、受付開始 打ち合わせ、資料作成
- 11月 - 3回目の開催、4回目の広報、受付開始 打ち合わせ、資料作成
- 12月 - 4回目の開催、5回目の広報、受付開始 打ち合わせ、資料作成
- 1月 - 5回目の開催 事業終了
- 2月 - 報告書作成、提出

5 実施体制及び主要スタッフの経歴

代表 橋詰茉莉亜 事務局長 川口瑠衣

●橋詰茉莉亜

常葉学園大学造形学部インフォメーションデザインコースで4年間デザインを学ぶ

全国各地 60ヶ所以上の動物園水族館に訪れている

日本平動物園には幼少期より馴染みがあり年間 20回以上訪れ、友人グループのガイドツアーなど行っている。

2012年の4月から団体を立ち上げて、いきもの新しい魅力を知ってもらうことをテーマとした冊子、7冊を発行。

●川口瑠衣

事務局長。

2009年より静岡市内の中間支援系 NPO 法人に勤務

事務局としていきもの企画に参加

団体事務として書類の作成、会計、渉外等を担当している

他、事務局として会員のボランティアが参加予定

(事務、裏方サポート — 山崎、高木、中村、他)

6 特にアピールしたいこと（専門性、独自性、先駆性、実績、2年間継続することの効果など）

有識者、著名人を招いた動物園での講演やパネルディスカッションの企画は多くあるが、「マニア」を呼んで話を聞くものは珍しい。

「動物園の伝えたいこと」+「専門性」の話しも、もちろん有益であるが、それは彼らの本を読んだりTVでみたり、講義にいけば聞ける話であることも多い。

今回は「動物園の伝えたいこと」+「マニアの持つ市民目線」で、「そういう楽しみ方もあったんだ！」「そこを見れば面白いんだ！」に気づいてもらう企画となっている。

「難しい専門的な講義」というよりも、「近所のいきもの好きのとんでもなく面白い話」というイメージを入口に、ファンを増やしたい。

過去の事業では、動物園から家に持ち帰り、楽しみ、学ぶことができる冊子を製作していたが、今回は現場である日本平動物園に来ることによって学べる、楽しめる企画となっており、より直接的な感動を味わえるため、「また来よう！」というモチベーションにつながりやすいのではないかと考えている。

また、当団体は基本的に「大人」を対象とした事業を行っている。

特に「動物園」においては大人を重視している。

それは、

- ・子どもは動物園に行く機会がある、行きたがる傾向にある
- ・動物園の開催する子ども向けの企画はたくさんある
- ・子どもの好奇心に、身近な大人が正しく答えられることが少ない
- ・子どもには、身近な大人（両親、祖父母、先生など）から彼らの言葉で伝えてほしいと考えている
- ・納税者である大人こそ、動物園が「地域の財産」であると知るべきだと考えている
→ だからこそ使おう、楽しもうと思ってほしい
- ・大人になって激減した「動物園に行く機会」をもう一度取り戻してほしい

以上のような理由、考え方によって、今回も大人向けとして企画した。

大人向けでも意味が分かる、場を乱すことがないようであれば、子どもの参加も可能であるが、その場合も中学生以上を対象としたい。

あくまで「大人」が、「動物園」や「いきもの」と、もう一度向き合いつながる場を作りたいと思っている。

地域の大切な動物園を愛し、支えるのは、他でもない市民である。

協働パイロット事業 (H28) 見積書

団体名: いきもの企画

企画のタイトル:「日本平学園 大人の部」

項目	金額	説明
講師謝金	150,000	1人10,000円(交通費込)×12名 最終回講師3,000円(交通費込)
イベント開催	25,000	備品、菓子代等 1回5,000円×5回
広報物作成(チラシ)	80,000	2,000部予定(協議により増減可能) ※デザイン料込 (ラフ制作、レイアウト制作、イラスト、写真素材の作成・加工、デザイン制作、テキスト作成等)
事務管理費	48,000	資料作成、会議費、交通費、通信費
小計 A	303,000	
消費税 B = A × 0.08	24,240	
合計 A + B	327,240	

◎実費弁償契約の希望の有無 有 無

※ 参加費の徴収、物品の販売、提案団体の自己負担等、委託料以外の財源がある場合

収入見込み額	金額	主な用途